

平成 26 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス				
教科目名	日本語	担当教員	一般科目 (人文) 教員	
学年学科	4 年 留学生	通 年	必修	2 単位
学習・教育目標	(C-1) 70% (A-1) 30%			
<b>授業の目標と期待される効果：</b>  昨年度までの学習を踏まえ、さらにレポートなどの作成に要求される論理的な文章の読み書き、また日本語における微妙な感情や感動の表現など、日本語能力試験 1～2 級レベルに対応した、より高度な日本語の言い回しを学習する。 1) 日本語の語彙力が身に付く。 2) 日本語の文法に即した、正確な文章を作成することができる。 3) 日本語を用いての議論・討論・発表能力が向上する。 4) 日本文化への理解が深化する。	<b>成績評価の方法：</b> 前期：平常試験 100 点+定期試験 100 点 +課題・小テスト(100 点以内とする) 後期：平常試験 100 点+定期試験 100 点 +課題・小テスト(100 点以内とする) *前期、後期を同じ重みとし、総得点率によって最終評価を行う。	<b>達成度評価の基準：</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>各課のテーマを理解し、要旨を把握できているかを測定する試験で 6 割以上できる。</li> <li>教科書各課の新出語句を覚えているかを測定する試験で 6 割以上できる。</li> <li>各課の重要文法を、正しく理解・運用できているかを測定する試験で 6 割以上できる。</li> <li>日本語と日本文化への関心が増したかを測定する試験で 6 割以上できる。</li> </ul>		
<b>授業の進め方とアドバイス：</b> 授業は教科書と板書を中心に行うので各自学習ノートを充実させること。授業は文法の解説が中心になるが、教科書の全てに触れられない可能性もあるので、各自が予習を必ずしておき、分からない点を個別に質問ができるように準備しておくこと。				
<b>教科書および参考書：</b> 改訂版どんな時どう使う日本語表現文型 500 (アルク・2010 年)、同短文完成練習帳 (アルク・2010 年)、辞書等				
<b>授業の概要と予定：前期</b>				
第 1 回：動作の対象 ～について・～に対して				
第 2 回：目的・手段・媒介 ～ように・～によって				
第 3 回：起点・終点・限界・範囲 ～をはじめ・～にわたって				
第 4 回：時点・場面 ～に際して・～において				
第 5 回：時間的同時性・時間的前後関係 ～たとたんに・～ないうちに				
第 6 回：進行・相関関係 ～一方だ・～につれて				
第 7 回：付帯・非付帯 ～ついでに・～ぬきで				
第 8 回：中間試験				
第 9 回：限定・非限定・付加 ～に限り・～ばかりでなく・～に加えて				
第 10 回：比較・最上級・対比 ～に比べて・～どころか				
第 11 回：判断の立場・評価の視点 ～にとって・～にしては				
第 12 回：基準 ～に基づいて				
第 13 回：関連・対応 ～に応じて・～をきっかけに				
第 14 回：無関係・無視・例外 ～を問わず・～はともかく				
第 15 回：前期の総復習と期末試験についての説明				
期末試験				
第 16 回：フォローアップ (期末試験の解答の解説など)				

授業の概要と予定：後期
第17回：例示 ～とか～とか
第18回：強調 ～というのは
第19回：逆接・譲歩 ～ながら・～とはいうものの
第20回：原因・理由 ～によって・～ばかりに・～からには
第21回：仮定条件・確定条件・逆接仮定条件 ～としたら・～とあれば・～たところで
第22回：不可能・可能・困難・容易 ～ようがない・～得る
第23回：傾向・状態・様子 ～がちの・～だらけ・～げ
第24回：中間試験
第25回：経過・結末 ～あげく・～に至る
第26回：否定・部分否定 ～はずがない・～わけではない
第27回：伝聞・推量 ～ということだ・～かねない
第28回：心情の強調・強制 ～てはたまらない・～ざるをえない
第29回：誘い・勧め・注意・禁止 ～こと・～ものだ・～べきではない
第30回：主張・断定 ～にはかならない・～にきまっている
第31回：学年の総復習と期末試験についての説明
期末試験
第32回：フォローアップ（期末試験解答解説など）